

八王子宿のうつりかわり

天正 18 年(1590)、北条氏照の居城八王子城は、豊臣秀吉の軍勢に攻められ、ついに落城した。その後すぐ、現在の八王子市街である横山の地に新しい町づくりがはじめられた。それは中世から近世への、新しい時代の幕開けでもあった。まず、浅川などの河川を管理し、甲州街道を整備した。甲州街道の両側には東から横山宿・八日市宿・八幡宿の三宿を元八王子から移して聞いた。その後には八木宿がつくられ、文禄 2 年(1593)には千人同心が元八王子から現在の千人町の拝領屋敷に移り住み、町は次第に形成されていった。寺院や神社も町の周囲におかれ、季節の行事なども行われるようになっていった。

江戸時代初期の八王子は江戸周辺の軍事・政治の中心で、大久保長安や関東十八代官が住み、政治をとりおこなっていた。しかし、やがて政治の中心は江戸に移り、八王子は甲州街道の宿場町として、また、市を中心とした地域経済の中心都市として発展する。この八王子宿の核となっていたのは横山宿と八日市宿とで、両宿には人馬継ぎ立ての間屋場があり、二軒の本陣と四軒の脇本陣もこの両宿に置かれていた。

六斎市（月に六回行われる市）も、横山宿と八日市宿とに立った。横山宿では四日場・十四日場・二十四日場で四のつく日に順次行われ、八日市宿では八のつく日に行われた。この市開設の特権を与えられたことに対して、横山宿と八日市宿とは、運上(税金)を幕府に納めていた。その負担方法は、市の立つ表通りの家主たちに賦課され、家主は市に出る商人から庭銭を得た。こうした交易の中心の市には、市守神社が配られ、市を守っていた。市の具体的な様子は、『桑都日記』の「桑都朝市」でよく知ることができる。

甲州街道の宿場町としての八王子は、江戸町民の富士信仰を抜きにして考えることはできない。富士講の道者（どうしゃ）は、甲州街道を通過して高尾山に参詣し、小仏峠を越えて富士山に向かった。高尾山を訪れる信者や文人も、八王子の宿をにぎやかなものとした。また、埼玉方面から相模の大山へお参りする人々も、八王子宿に宿をとり通過して行った。この大山参りの人々が主として通る道を、大山道ともいった。このように、街道が整備された江戸時代における庶民の参詣の旅は、八王子の町をさらに発展させた。とっくり亀屋などの名高い旅籠も、こうした中で誕生した。

元禄時代は八王子の町も安定し、経済的にも文化的にも充実したときであった。この時代に、それまで八王子宿に 1 ヶ所（現在の甲州街道の横山町と八日町との境・札の辻と言った）であった高札が各宿に立つようになり、元禄 12 年(1699)には町の人々に時刻を知らせるための時の鐘がつくられる。また、八王子宿への入口付近に位置する子安神社は元禄年間に再興されたものともいう。今日に残されている石造物の中にも当時の雰囲気伝えるものがある。まず、松門寺の観世音[延宝 7 年(1679)]、とうもろこし祭りで名高い蓮生院（現・直入院）の五智如来[延宝 8 年(1680)・元禄 4 年(1691)]、それに、新町の永福稲荷境内にあ

る庚申塔[元禄 16 年(1703)]、この庚申塔には横山四日場の銘があり貴重で、ある。これらの石造物はいずれも量感のある豊かな彫りで、当時の間]の人の心持ちを今に伝えている。

この時期のものばかりでなく、市街地の神社や寺に残されている金石文には、伊勢屋七左衛門、中村屋儀兵衛、大野屋惣兵衛、小西彦兵衛、森田林七、山上儀兵衛、若荷屋佐七、井桁屋源兵衛、大平新蔵、中川庄兵衛、黒沼彦七、石田勘右衛門（八幡神社「天水桶」嘉永 2 年）、上州屋弥兵衛、織屋善兵衛、大竹宗吉、上州屋）いる。そこからは、八王子宿に生きた人々の生活文化がうかがわれる。

幕末になると八王子宿は再び、政治的・軍事的な側面が強くなってくる。それはまた、新しい時代、近代国家への展開でもあった。

江戸時代の八王子宿を概観してみると、初期から様々なかたちで江戸との関係が密接で、あったことがわかる。

八王子の略年表

西暦	和暦	ことがら
1590	天正 18	八王子城落城する。甲州小人頭 9 人、同心 250 人、元八王子に移住する。徳川家康、江戸城に入る。大久保長安、八王子に入る。
1593	文禄 2	甲州小人頭・同心ら、八王子城下から現在の千人町に移る。
1599	慶長 4	千人同心が成立する。
1603	慶長 8	徳川家康、江戸幕府を聞く。
1604	慶長 9	このころ大久保長安、甲州街道を整備する。
1613	慶長 18	関東十八代官、八王子に集住する。
1616	元和 2	武田信玄の息女松姫、八王子にて死す。
1641	寛永 18	駒木野関所に関所番 4 名がおかれる。
1652	承応 1	千人同心、日光火の番役を命じられる。横山・八日市宿、甲州街道の宿駅に指定される。
1699	元禄 12	八王子とその周辺の一部が、江川太郎左衛門の支配となる。八王子の代官となる。これより、関東十八代官は八王子から江戸に移る。時の鐘（現・上野町念仏院）がつくられる。
1702	元禄 15	八王子十五宿の戸数 734 戸 3448 人
1704	宝永 1	八王子代官陣屋払下げ、代官の江戸定府となる。
1715	正徳 5	八王子十五宿 946 戸 人口 3880 人
1757	宝暦 7	八王子の縞市をめぐり、宿方と在方の商人が争う。
1783	天明 3	この年、浅間山大噴火、東国大凶作、甲州街道の通行量が増える。
1800	寛政 12	八王子千人同心原胤篤等 100 人が蝦夷地開拓に入る。
1802	享和 2	最上徳内「官材伐出御用」のため約 1 年間浅川の貌淵に滞在。
1812	文化 9	最上徳内「関東蠟」の製造監督のため文政 7 まで八王子に移住。
1822	文政 5	『新編武蔵風土記稿』の多摩郡が完成。
1823	文政 6	植田孟縉『武蔵名勝図会』を献上する。
1827	文政 10	塩野適斎『桑都日記』を著す。
1836	天保 7	郡内騒動勃発、江川太郎左衛門英龍八王子に出張し鎮圧にあたる。
1837	天保 8	八王子十五宿 1416 戸 人口 5457 人 松本斗機蔵「獻斤微衷」執筆。
1850	嘉永 3	横山宿、元八王子村、檜原村で西洋種痘の接種が始まる。
1854	嘉永 7	鎌水村でお台場築造用材の伐出し始まる。
1859	安政 6	幕府は、神奈川・長崎・函館を開港。
1866	慶応 2	八王子千人同心、八王子千人隊と改称
1868	明治 1	明治と改元する。八王子千人隊被免される。
1869	明治 2	蚕卵紙生糸改所支所を八王子に設置する。

西暦	和暦	ことがら
1873	明治 6	八王子生糸改会社設置される。
1874	明治 7	八王子縞買仲間が織物会所をつくる。
1875	明治 8	八王子警察署設置
1877	明治 10	萩原彦七、田代平兵衛らが製糸場を建設する。
1879	明治 12	多摩郡を西・南・北・東の四多摩に分ける。
1881	明治 14	八王子で、一府四県連合共進会を開催。
1884	明治 17	武相困民党事件。
1886	明治 19	南多摩郡蚕糸業組合設立許可。織物仲買商らが八王子織物組合設立。
1889	明治 22	町村制施行 により、八王子町となる。 甲武鉄道(新宿―八王子)が開通 。
1891	明治 24	横川榎子が私立八王子学校を開設。
1893	明治 26	三多摩が神奈川県から東京府に移管される。
1895	明治 28	八王子染色講習所を八王子染色学校と改称。八王子電灯会社創立
1897	明治 30	八王子大火（310 戸焼失 40 名焼死）
1899	明治 32	八王子で、一府九県連合共進会を開催。
1900	明治 33	八王子町立伝染病院開設。萩原橋できる。
1901	明治 34	萩原製糸工場が片倉組の経営に移管。浅川橋できる。
1903	明治 36	中央東線（八王子―甲府間）開通。八王子染色学校府立に移管
1908	明治 41	府立第四高等女学校開校。 横浜鉄道（八王子―東神奈川）開通 。
1917	大正 6	八王子町が 市制 を施行 6904 戸 40733 人
1923	大正 12	関東大震災。
1925	大正 14	玉南電気鉄道（京王線）（府中東八王子）開通 。
1927	昭和 2	大正天皇陵、多摩陵が完成。 高尾登山鉄道が開通 。
1929	昭和 4	武蔵中央電気鉄道（市電）（浅川駅前―新町）が開通 。
1931	昭和 6	京王電軌御陵線が開通 。
1934	昭和 9	八高線が全線開通 。
1939	昭和 14	西八王子駅が開設。
1941	昭和 16	小宮町と合併。
1945	昭和 20	八王子が 大空襲 を受け、400 人余りが死亡。敗戦。
1955	昭和 30	6ヶ村（横山・元八王子・思方・川口・加住・由井）が八王子市に合併 する。人口 95437 人
1957	昭和 32	横浜線 片倉駅開設。
1959	昭和 34	浅川町と合併 。
1964	昭和 39	柚木村を合併 。八王子が、東京オリンピックの自転車競技会場となる。

八王子市郷土資料館（平成元年）特別図録『八王子宿のうつりかわり』に加筆